



農業後継者がプロジェクト活動の実績を発表しました

1月15日、筑西合同庁舎において、筑西地域プロジェクト実績発表会を開催し、管内農業後継者クラブ員が各々取り組んできたプロジェクト活動について発表しました。

当日は、参加者を発表者や審査員、事務局だけに限定し、ソーシャルディスタンスの確保やアルコール消毒の実施、こまめな換気などの感染症対策を徹底したうえで、筑西4Hクラブ下館支部・同関城支部・同協和支部、大地のめぐみの各代表者によるプロジェクトの実績発表が行われました。



写真：発表会の様子

プロジェクト発表では、熱のこもった発表と活発な質疑応答が行われ、厳正な審査の結果、大地のめぐみの藤田剛誌さんが最優秀賞を獲得しました。藤田さんは、筑西地域代表として、1月29日に行われる予定の県のプロジェクト実績発表会に出場します。

- | | | | | |
|-------|----------------------------|-------------|------|---|
| ○最優秀賞 | 「土壌改良資材の活用によるそばの収量・品質への影響」 | 大地のめぐみ | 藤田剛誌 | 氏 |
| ○優秀賞 | 「抑制トマトの収量を上げるためにやるべきこと」 | 筑西4Hクラブ協和支部 | 山口一登 | 氏 |
| | 「空気供給機が梨「幸水」の果実品質に及ぼす影響」 | 筑西4Hクラブ関城支部 | 外山翔太 | 氏 |
| | 「コシヒカリにおける無代かき栽培の検討」 | 筑西4Hクラブ下館支部 | 稲葉祐一 | 氏 |

麦類湿害対策「耕耘同時畝立て播種技術」現地検討会を開催

下妻市は、米、麦、大豆等のブロックローテーションが盛んな地域ですが、降雨の多い年には、湿害が発生し問題となっています。そこで、令和2年12月3日、下妻市下宮の圃場で、麦類の湿害対策として「耕耘同時畝立て播種技術」の現地検討会を開催し、ブロックローテーションを実施する下妻市の3つの生産組合、市役所等総勢18名が参加しました。

農業研究所作物研究室から令和2年に改訂した「麦・大豆の耕うん同時畝立て播種栽培マニュアル」による技術説明とアツプカッターロータリ畝立て播種機の実演を行い、当経営・普及部門から麦ふみや追肥等の今後の管理のポイントについて説明しました。



写真：現地検討会の様子

畝立て播種機の実演では、高さ15cm程度の平畝を作りながら順調に播種する様子を確認することができました。

参加者の関心は高く、適する土壌条件や畝を立てる仕組み、播種スピードの限界、販売価格、生育への影響、通常のアツプカッターロータリの改良の仕方等活発な質疑応答が行われました。今後は生育状況を確認するとともに収量への効果を検証していきます。

当部門は、今後も普通作経営体の経営安定に向けて麦の収量向上を支援します。

